

創立65周年記念大会

事務局長 本多省三

大正14年、本会の前身である富山博物学会が設立されて以来、満65年の歳月が流れ幾多の変遷を重ねて今日に至っています。昭和39年には本学会は発展的にわかれ、教育的な側面は富山県生物教育研究会が担当、学術的な側面は富山県生物学会が担当することになり、以来それぞれ地道な活動を展開しています。65周年を振り返り新しく出発するために、ひとつの節目として創立65周年記念大会を平成3年3月2日(土)に実施しました。

記念大会の内容は、研究発表会・講演会・映写会・生物写真展でありましたが、以下にその概要を示します。

○研究発表会 13:30~14:30

- ・アシツキノリについて 本多省三(富山中部高等学校)
- ・カガバイの産卵について 高山茂樹(魚津水族館)
- ・日本産ワラジムシ類とその分布について 布村 昇(富山市科学文化センター)
- ・日本海沿岸のタブノキ林と呼称の地域性について

- 本瀬晴雄(朝日町南保小学校)
- ・キバラヘリカメムシについて 田中忠次
- ・富山県の里山植生の現況について 本多啓七

○講演会 14:30~16:00

- 演題 セサミロードのゴマ文化誌 東京農業大学客員教授・富山大学名誉教授
(前富山県生物学会会長) 小林貞作先生

○映写会 16:00~17:00

- ・砂漠と水と生命
- ・立山の主 - ライチョウは語る 他

○生物写真展(富山市科学文化センターと共催)

テーマ 豊かな富山の自然-生物のいとなみ-

期間 平成3年3月2日(土)~平成3年3月17日(日)

場所 富山市科学文化センター 展示室

出品者と内容

1. 田中忠次 シロツバメエダシャク、ギフチョウ、キアゲハ、スジグロシロチョウ、

モンキチョウ、ベニシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、ヒメアカタテハ、ヨツスジハナカミキリ、エグリトラカミキリ、トラハナムグリ、コアオハナムグリ、クロハナムグリ、エゾコヒラタアブ、シマアシブトハナアブ

2. 堀 与治 十二町小のオニバス、オニバス
3. 本多啓七 天山山麓の大自然、アラスカのホッキョクヤナギ、中国の砂漠、弥陀ヶ原のガキ田、ブータンの自然、沖縄のソテツの花、台湾の海岸風景、カナダの豪快な自然、ナイルの農耕風景、祖父岳のハイマツ低木群落
4. 増田恭次郎 カマキリの腹から出たハリガネムシ、クサギの花と果実、ゴマ、メタセコイアの四季と昆虫の生態
5. 山岡正尾 ヒカリゴケ分布地帯の風景と海外の生態

①残雪の八郎坂と年ごとの大崩壊 ②八郎坂の登山道わきの岩穴 ③立山室堂平東北端の断崖 ④県内某所のヒカリゴケの洞窟 ⑤佐久市岩村田の洞窟 ⑥吉見町の吉見百穴 ⑦羅白町のマッカウス洞窟 ⑧世界での発見地に近いウインザー城 ⑨ノルウエーのソグネフィヨルド ⑩カナディアンロッキー山中の林床 ⑪アラスカ、マッキンレーの氷河

6. 石浦邦夫 ある一本のケヤキ
7. 太田道人 ユキツバキとヤブツバキ
8. 南部久男 にらみかえせない
9. 布村 昇 ウロコを背負った私は誰? 磯に見られる五角形の糸巻?
10. 稲田哲夫 これがカタツムリの足あと? 木に寄生する木ヤドリギ
11. 本多省三 ガキ田の生態

その① モウセンゴケに捕ったカオジロトンボ その② 産卵するルリボシヤンマ その③ ワタスゲとガキ田群
ミズバショウ、3月の立山、これは何の足あとでしょう? 白い旗をつけたチングルマ

12. 安井一朗 紅色のミジンコ、ガキ田の緑藻
13. 平内好子 この花の名前はなあに?
ミズタマソウ、キツリフネ、ヘクソカズラ、ワタスゲ
赤い百足-コムカデ、土壌動物の王様-ササラダニ

- 14. 前田週二 氷見市立十三中学校鬼蓮観察池のオニバス
- 15. 高山茂樹 カモガイのコロニーの生態、孵化直前のコウイカの子供、カラマツガイの観察、モスソガイ、アズマニシキガイ、ヒメイトマキヒタチオビガイ、コウイカの交尾、カラフデガイ
- 16. 本瀬晴雄 シロバナハマナス、シロバナツルリンドウ、オオミズアオ、モンキアゲハ、ホシホウジャク、シロバナトクワカソウ、シロバナハマヒルガオ
- 17. 若林一成 自然の中で木と遊ぶ、厳冬に絶えて美しく、コメツガの老樹にサルオガセのつららー、黒部峡谷の木々の枝振り、道祖神「地藏」と木々、再生する若木、高山の木々のたくましさ、人工的な川と自然美ー立山カルデラ、高山の木々のたくましさーコメツガの枝と萌芽
- 18. 本瀬 薫 ユキツバキ、ヤブツバキ、ユキバツバキ、キツリフネ、ウスキツリフネ

このようにして、創立65周年記念大会は盛会でありましたが、中でも研究発表の「カガバイの産卵について」や「日本海沿岸のタブノキ林と呼称の地域性」は興味あるものとして注目されました。また、豊かな富山の自然をテーマに開催された生物写真展は大変好評で、連日沢山の人々が参観し、土壌動物の拡大写真、カイの産卵やイカの交尾の写真、ユキツバキとヤブツバキの写真、多くの昆虫の写真、時間を追ったオニバスの開花の写真、立山のガキ田の生態写真など、特に好評でした。

ところで、ここ約20年をふりかえってみますと、おおよそ5年毎に本生物学会は記念大会を開催してきています。そしてその記念大会毎に新しい生物学会の方向をめざして活動を続けてきました。そしてこの65周年を迎えたわけです。65周年の行事を終え、考えますことは、いよいよ本生物学会が新しい時代に沿って変革しなければならないということです。多くの生物を研究する人たちがより専門的に、より深く生物の一分野を研究するようになり、生物に関する学会や研究会も沢山でできるようになりました。その中で本生物学会の行方を考える時、本当に多くの困難を感じる訳ですが、歴史ある本生物学会をどのように続けていくか、いかに発展させていくかの具体的な方策をお互い出し合って早急に検討する必要があると思われま

す。例えば、研究発表会を重視する立場で、会員相互の研究の情報交換やディスカッションを深めるために、研究発表会を一日にする、総会など機会あるごとに研究発表を組み込んでいく、といった持続的な活動の必要性が痛感されます。



生物写真展状況

故植木忠夫先生を偲ぶ

1. 故植木忠夫先生に期待した本学会の将来

本多啓七

植木先生が富山県生物学会の第3代会長となられた際に、新しく副会長制を設けられ、不肖私がこの席で会長を補佐することになりました。植木先生を会長に推戴したのは前会長の進野久五郎先生がこの学会の創立以来お世話をしていただき、しかも18年間の長い間第2代会長を務めておられたのでこの際、以前に富山博物学会から分離独立した富山県地学会の例に習い、会長を富山大学の先生から選ぶ様式を取っていただきたいとの会員一同の要望にこたえたものであります。

事務局においても昭和30年から35年にわたって富山大学にあって、堀令司先生がいろいろと事務的な指導をなさいました。この以前は富山中部高校に事務局があって山本利彦先生がこの任に当られました。事務局が大学に移管したのは大学独自の立場から必要性が絡んでいたのですが、今後未く大学に事務局のあることを願い、しかも会長も大学の中から選ばれることを考えていたのですが、その後事務局は大学の多忙のため辞退されました。そのため新しく設置された富山県理科教育センター所長の平崎菊太郎先生をお願いして生物室に事務局を置くことになりました。しかし日本生物教育全国大会を富山で行なう際にはこの生物学会が関与せずとの結果から、当時富山県高校生物研究会の島木会長を中心として、小・中・高校合同の富山県生物教育研究会を設置して、全国大会を行ないました。ここで新しく設置された生物教育研究会と生物学会両者の事務局を富山県理科教育センターに置くことが出来ないの、教育関係の前者をそのまま理科教育センターに置き、後者を筆者が所長代理の立場から今度赴任した上市中学校に置くことにしました。

このように事務局については苦勞したが、植木先生が会長となられると坂下栄作先生が富山女大附属高校の生物教師であったため、再度事務局を引き受けられました。

われわれの生物学会では富山県地学会と同じように富山大学で会長と事務局を引き受けられ新しい時代に応じた若い会員を多数網羅して何時までも若々しいエネルギーの充満した学会に発展することを願っていました。その意味で植木先生が会長を辞退された際に小林先生をお願いし承諾を受けました。しかし事務局は多忙のため他所でやってほしいとの事でやむを得ず4年間は富山県科学教育センターに移管しました。その後私は私立富山第一高校に務めたので、事務局を私宅に移しました。本多省三を事務局長として16年間に亘って世話をしてきました。

新年度は是非この学会の会長と事務局を富山大学に置かれることを願ってやみません。これがまた当学会の昔からの願いであります。

植木先生の温和で多才の人柄や専門分野については他の会員が述べられるので省略します。